

小さい者の一人が減びることは天にいますあなたがたの父のみ心ではない。



社会福祉法人 小羊学園

〒431-1304

静岡県浜松市細江町中川7440-1

電話：053-437-0826 FAX：053-437-0849

E-mail kohituji@imix.or.jp

H.P http://www.imix.or.jp/kohituji/

発行人：稲松 義人

印刷所：聖隷サービス(有)

定 価：一部 30 円

2006年8月20日

第 285 号

地域社会の再生をめざす入所施設の創造

理事長 稲松 義人

小羊学園の移転改築について、浜松市と具体的な相談をはじめました。障害者福祉制度が大きく変更される中、まだまだ先の見えない部分もあります。が、やっと巡ってきたこのチャンスを生かして、何としても計画を実現させたいと願っています。

将来の不安を言い出せばきりがありません。今後どのように制度が変わったとしても、これまで私たちがめざしてきたことが大きく変わるわけではありません。それは、知的ハンディのある子どもたちの可能性と命の豊かさを確認し、彼らとともに生きることの喜びをご家族とともに分かち合い、さらに地域の皆さんの理解に支えられて、たとえ自分のことをしっかり主張できない人であっても、安心して暮らせる平和な社会をつくることです。

今から四〇年前、小羊学園は入所施設として仕事をはじめました。それはある意味、障がいのある人たちの生活を、家庭と地元(地域)から離れたところで支援することでした。家庭や地域社会の中で安心して暮らせない状況を考えて、「保護」するという考えが中心だったのだらうと思います。十分とは言えないまでも、補助金と措置費に裏付けられた行政主導の社会福祉の

一つの姿でした。好調な経済の後押しもあって、保護の名のもとに多くの入所施設(または病院)がつくられました。しかし、それによって、障がいのある人たちは一般社会から切り離されることになり、一人の人間として自分らしく生きていくことにおいて、様々なチャンスを奪われたのだと思います。

一九七〇年代、北欧から始まったノーマライゼーションの思想が伝えられ、今までの反省から、入所施設は否定的に見られるようになりました。どんなに重い障がいがあっても養護学校への通学が認められ、通所施設が主流になり、障がいのある人たちの福祉のあり方も大きく変化してきました。しかし、地域社会で生きていくには不安が多く、特に自ら主張することのできない知的ハンディのある人たちのためには、生涯支援を受けられることを願って、入所施設は作られ続けました。

小羊学園では、施設での支援のあり方を問い直し、できるところから少しずつ改善してきました。大人数での生活から小舎制、さらにユニットケアの試み、日中活動のために施設の外に出かけていく試み、さらに一部の入所者にあつては施設から離れたところでの少人数での生活も試みました。そんな

生活が可能であることを経験し、今は、一人でも多くの入所者を、地域生活に移していきたいと願っています。

しかし今も、地域社会で安心して暮らすには心配があります。様々な取り組みから、障がい者への理解は進みましたが、同じ地域で一緒に生活することにはまだ課題が多いからです。経済優先の発想の中で障がいのある人にとっただけでなく、子どもにしても高齢者にしても、地域社会で助け合いながら、一緒に生活していく生き方が忘れられてしまったように思います。

何らかの支援を必要とする者が、地域社会の中で安心して暮らしていくためには、自分たちで困ったときには助け合える地域社会を再生していかねければなりません。また、支援が必要なときには確実にそれを受け止められるネットワークをつくっていかねければなりません。

改築を契機にこれから目指していく小羊学園の将来像は、いざというときに受け止められる入所施設でありながら、地域社会と協働して、地域での生活を支える機能を併せ持つことだと思えます。これまでの歩みの中で、幸い多くの支援者に恵まれました。一人ひとりが地域社会を構成しておられる人たちです。私たちが支援を受けられるだけではなく、地域の問題として共に学び、協力して心温かな地域社会を作っていきたいと願っています。

地域生活への足がかりを求めて

かなりの短期間で、ある意味強行にまとめられた障害者自立支援法は、制度として再検討すべき課題が多いと感じています。しかし、できるだけ地域での生活を目指すことは、生活の場と活動の場を分けて考えることは、以前から私たちもめざしてきたかたちでした。児童寮・青年寮の改築計画では、移転に合わせて、入所定員が10名減ることになっています。そのための、並行して進めている地域での生活に移る準備も少しずつ進んでいます。

グループホーム温心寮

小羊学園として初めてのグループホーム「温心寮」は、小羊学園から歩いて五分のところにあります。もともと隣にある看護大学の学生寮であった建物でした。周辺に福祉施設が多いという

地域性もあり、近隣の人たちにあらためて理解を求める必要はありませんでした。また、入居者たちも、自分で歩いて小羊学園や小羊デイケアホームに通うことができる距離にあったため、道路の横断に気を付けなければならぬという心配は多少ありましたが、基本的には、住み慣れた地域内での生活でしたので、戸惑いも少なかったのではないかと思います。その後、温心寮がグループホームとして認可をうけ、青年寮から三名、支援センターわかざから二名が、それぞれ温心寮に籍を移しました。現在は六名の入居者がおり、日中は三名が小羊学園へ、その他に小羊デイケアホームへ一名、細江あすなる作業所に一名、実習というかたちで民間の会社に一名が通っています。

あゆみホーム

温心寮は、初めての地域移行への取り組みということもあって、小羊学園としては、介護面での支援の需要が比較的少なく、コミュニケーションの面でも、ある程度意思確認ができる人たちに入居してもらいました。しかし、将来的にはどうしても、多くの介護が欠かせず、言葉でのコミュニケーションの難しい人たちの地域移行についても、検討していかなければならないと考えていました。一昨年度から準備を

はじめ、昨年の四月からは自活訓練というかたちで、児童寮在籍の年長の利用者四名が「あゆみホーム」での生活を始めました。日中はこれまでと同じように、小羊学園のデイプログラムへ参加しますが、普通の住宅での四人の生活では、これまで見ることでできなかったリラククスした表情を見せてくれ、本人たちにとってより好ましい環境であることが感じられました。時間帯によってアルバイトの学生に助けってもらったり、夜間にも支援が必要だったり、課題はありますが、これからの事業展開を考える上で大いに参考になる試みとなりました。

新しい地域生活の場を 求めて自立訓練の 開設準備を進める

昨年からは、青年寮を中心に二つ目のグループホームの開設を目標に検討を始めました。これまでの試みを通じて、ご本人たちにとっては、グループホームでの少人数での生活の方が好ましいことが徐々に理解され、小羊学園家族会の皆さんが資金面でご協力くださり、この六月に、小羊学園から車で五分ほどのところにある細江テクノランドの団地の中に、地域生活用の住宅を購入することができました。外見は木造二階建の普通の住宅ですが、もともとテクノランドにあった工



▲地域生活体験の家「ひだまり」

場の職員寮だったようで、間取りは、一階に六畳の個室が四部屋、ダイニングキッチンと浴室トイレ、二階にも六畳の個室が四室あり、その他に六畳と四畳半の続き間が一つ、トイレとシャワー室があります。温心寮と違い、周囲は一般の住宅が並び集落の中にありますので、団地の自治会役員の皆様のご配慮で説明会を開かせていただきました。説明会には地域の公民館に二〇名位の方々が集まってくださり、まず小羊学園から地域生活の必要性について説明させていただき、その後ご参加くださった皆さんから、様々な質問や要望が寄せられました。初めての地域での生活拠点づくりには、近隣の人たちの立場からは、色々ご心配なこともあ

り、不安があることが感じられました。実際に生活をさせていただく中で、良い交流の機会をもって、少しずつ理解を深めていただくことが課題であると感じました。

「ひだまり」体験宿泊を
実施

新しい地域生活のための家は、職員から公募した中から「ひだまり」と命名されました。実際に固定したメンバーでの生活は、秋からということにして、夏の間は何人かが体験宿泊を試みることにしました。ことばのない人たちの意向を推し量ることは難しく、短期間の体験では決して十分とは言えませんが、それでも一人ひとりが実際に体験する中で見せてくれる表情は、職員として検討するためには、貴重な情報となります。

最初は、温心寮のメンバー数名を中心に体験宿泊をしました。近隣の人たちのことを考えると、言葉によるコミュニケーションが取りやすく、行動面での障害がない人たちが誤解されないうということがありました。もちろん、すでにグループホームを経験している人です。温心寮と比べてどう感じたかという感想を聞くことができました。Aさんは、温心寮より新しい建物だったのが良かったのか、普通の町に近い環境が良かったのか、私は断然



▲宿泊体験「いただきまーす。」

「ひだまり」に移ると早くも引越し希望でした。しかし、Bさんは、短期の宿泊で自分の荷物は温心寮においてきたため、「ここにはテレビがないから温心寮がいい。」という感想を聞かせてくれました。実際に生活のすべてを移してみないと実感として比較することは難しいようでした。

青年寮から宿泊体験を利用した人たちの様子は、現在の青年寮が四人室であるため、一人ひとりが個室の寝室といるのが不慣れでなかなか寝付けなかったり、初めての場所で緊張してフリー時間も職員のそばにずっとくっついていたりする人もいたようでした。一方、自分でどんだん二階に上がっていったり、初めての住宅の中を探索するよううろうろと歩いて回ったりする人もいました。

知的ハンディのある人の場合、話や図面での説明を聞いて、自分で決めることは難しく、実際に生活してみることで実感として自分の希望を伝えることができるので、こうした試み的な体験の機会を提供することは、とても大切だと思います。

園外作業場
「ワークショップみらい」
への通所も準備中

入所施設として運営してきた小羊学園は、生活の場と活動の場の両方の機能もっています。活動の時間は、日課として組まれています。実際には多くの職員が交替勤務する中で、生活全体を渾然として支援されていると言った方がよいかもかもしれません。情報共有がしやすいとか、移動の手段がないとか便利などところもあるのですが、入所施設の中ですべてが完結してしまいがちな生活は、一般社会での生活と大きく違うところです。

地域の中にグループホームや自立訓練棟というかたちで生活するようになってきた人たちのうちには、日中活動の場として小羊学園に通ってくる生活になります。

逆に、小羊学園で生活する人が、園外にある活動の場に通うことも、職住分離の生活のあり方の一つということになります。



▲ワークショップみらいでの作業

小羊学園ではこれまで、あすなろ作業所や細江こひつじ作業所を設置したり、法人内の他施設（小羊デイケアホームや支援センターわかぎ）の中に場所をお借りしたりして、通っていく生活を試みたことがあります。

昨年度から、旧職員の縁から小羊学園から車で約一〇分のところにある元鉄工所の空いたスペースをお借りすることができるようになり、折を見て、活動グループごとに出かけて行っていました。これまでは、「高丘の作業所」というふうに地名で呼んでいましたが、「ひだまり」と同じように職員から公募し、「ワークショップみらい」と呼ぶことになりました。設備的に少しづつ手を入れていく必要を感じています。地域に拡げていく一つのきっかけになっていくものと思っています。



▲トイレでの介助がしやすくなりました

市川園の助成金を
受けてのトイレの
改修工事を完了

昨年度分の市川園の助成金でトイレの改修を行いました。青年寮では、利用者の加齢により、身体的介助の必要な方が増え、トイレのドアが狭くて、介助者が苦勞をしていました。今回、トイレ二箇所のブース（仕切り）を二〇年ぶりに全面更新し、スムーズに介助できるように改修することができました。工事は、利用者が少ない夏休み期間に実施しました。

市川園様のご支援に心から感謝し、ご報告いたします。

総事業費 一、五七六、〇五〇円
市川園助成金 八〇〇、〇〇〇円
自己資金 七七六、〇五〇円

支える会だより

小羊学園の夏祭りを支えるボランティア

7月29日の夕方、心配だったお天気も何とか持ちなおし、予定どおり、恒例の小羊学園夏祭りが開かれました。小羊学園の行事で地域の人たちも一緒に楽しむイベントは、春の創立感謝祭、夏祭り、秋の運動会が大きなものです。この地域交流行事には、準備から実際のプログラム進行、後片付けまで、お手伝いくださる大勢のボランティアの皆さんに支えられています。今回の夏祭りでも、盆踊りの指導と当日の踊りをリードしてくださるのは、地元の細江町湖東老人会民踊クラブの皆さんです。今年も8名がご参加くださいました。学生のボランティアは、聖隷クリストファー大学と東海福祉専門学校から合計27名の学生さんが会場準備、模擬店手伝い、利用者の付き添い、後片付けまで、てきぱきとお手伝いくださいました。

(稲松)



つ の ぶ え の 新 し い 読 者 を ご 紹 介 下 さ い

つ の ぶ え の 読 者 数 は、 郵 送 数 で 現 在 約 1,900 名 だ す。 高 齢 化 か ら 少 し づ つ 減 少 す る 傾 向 で す が、 こ れ か ら も 知 的 ハ ン デ ィ の あ る 子 ど も た ち (人 たち) の 福 祉 の 現 状 を 共 有 し て く だ さ る 支 援 者 の 輪 を 大 切 に し た い と 願 っ て い ま す。 皆 様 の 周 り に つ の ぶ え を 郵 送 し た い と い う 方 が い ら っ し ゃ い ま し た ら 是 非 ご 紹 介 く だ さ い。

(連絡先)
〒431-1304 浜松市細江町中川 7440-1 小羊学園
FAX 053-437-0849
Eメール kohituji@imix.or.jp

担当：鈴木昌代

小羊学園改築計画にご協力ください

(口座名義)「小羊学園を支える会」
郵便振替口座 00890-4-45415
りそな銀行浜松支店 (普通) 040005
静岡銀行細江支店 (普通) 043483

2006年度 小羊学園を支える会 寄付金報告

月	件	(円)
7	37	482,000
累 計	220	4,179,642

皆様のご支援に心より御礼申し上げます

◆ 職員募集 (看護師・他)

重症心身障害児施設「つばさ静岡」(静岡市)で、引き続き看護師を探しています。関心のある方、お心当たりのある方ご連絡ください。

小羊学園(浜松市)でも、介護職員(臨時職員)、看護師(パート)を探しています。こちらでもご連絡お待ちいたしております。

つばさ静岡 担当：羽山(はやま)
電話：〇五四〇二四九二八三〇
小羊学園 担当：雨宮(あめみや)
電話：〇五三〇四三七一〇八二六

編集後記

いっ っ なく忙 しい夏を過 ぎていま す。先週末、隣りの老人ホーム浜松十字の園の夏祭りに参加しました。小羊学園と違い、利用者の皆さんは、庭を取り囲むように設けられた観覧席に座っての参加です。それでも、地域のグループによる踊りや太鼓、職員がその日のために猛練習を重ねたというよさこい踊り、迫力ある手筒花火など、楽しいひとときでした。私も、明子先生(小羊学園創立者夫人)と一緒にゆったりとした時間を過ごしました。ここでも、夏祭りは施設に地域社会が入り込む大切な時間です。残暑厳しい季節です。ご健康お祈りいたします。(I)